



海伝ニュース

2020年6月号

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
海外伝道部発行

全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい

巻頭言 「召しを聞こう！」 ナオミ・ダウディ師（シンガポール）



伝道者として、宣教師として、牧師として、教育者として長年過ごした中で、1つのことが変わらず私の奉仕の土台になっていました。神の世界宣教への召しです。世界宣教こそが神の御心の核心なのです。

ある日曜日の夕拝、神は生まれて初めて当時10歳だった私に語りかけ、世界宣教に召して下さいました。世界宣教が何を意味するかさえ知りませんでした。召しが現実になるまで紆余曲折ありましたが、1つだけ確信していたのは、神はすべての国民がキリストを知ることを望んでいることでした。

神が私を宣教師から牧師にしたのは、とても大きな転換点でした。小さな教会は支払いも滞るほどお金に困窮していました。牧師になって初めての役員会で、「失われた魂を救うために宣教大会を開催して、世界宣教のために献げよう！」と伝えました。ぜひ必要なことでした。

なぜなら、教会がお金に困っている時こそ、神の御心に歩調を合わせないといけないからです。神の御心とは何か？それは世界宣教です。神は御子をこの世に遣わされました。だから私たちも宣教師をこの世に遣わさなければなりません。

私たちの教会の第一歩は、海外伝道教会になることでした。神の願いに合わせて教会も歩みだしたのです。すると神の恵みによって、教会は人数も会計も増加しました。すべての教会員が海外伝道に何らかの形で関わるように勧めたことが、神の御心になったからでしょう。

開拓伝道をしている時も、牧師を訓練をしている時も、どんな時でも、私の願いは、出て行ってすべての国民を弟子にする「大宣教命令教会」を作り上げることでした。

神の命令は変わっていません。でも教会は、マタイ 28：19-20 の主イエスの言葉を忘れているかのようです。教会が宣教師に十分献げていない事実を見ればわかります。海外伝道献金の不足は、教会が青年たちに宣教師になるようアピールしていない、あるいは何らかの形で世界宣教に参加できる活動を用意していないからです。マタイ 7：20 はこう言っています。「あなたがたはその実で彼らを見分ける（以下、新共同訳）」。

私たちは教会史の驚くべき時代に生きています。昔日の預言者たちが見ようと欲し、目にすることがなかった事柄が、今日実際に起きているのです。私たちは見れるだけではなく、その中で生きる特権が与えられているのです。

キリストの福音がかつて到達しなかった地域に広がっています。宣教学者は驚きを隠せません。世界の人々は今日、過去になく唯一まことの神を求め、今まで以上に福音に心を開いています。

パウロがローマのクリスチャンに書き送った言葉を覚えていませんか？「ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。“主の名を呼び求める者はだれでも救われる”のです。ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。“良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか”と書いてあるとおりです（ローマ 10：12-15）」。

使徒パウロの言葉は、今日でも私たちの心に響かないでしょうか？現代社会の技術はさらに発達し、移動の手段はさらに増加し、多くの人々が複数の言語を話し、世界がかつて経験したことがないほど救われる人が起こされています。

今だからこそ、派遣する教会がさらに必要です。今だからこそ、派遣される者がさらに必要です。福音を伝えなければならないからです。地上部隊となる宣教師が不変の神の言葉を告げるためです。国々を、町々を、村々を、癒し、変革し、救うためです。

今日、2つのキーワードが信仰者にとって重要です。それは協働と動員です。ラルフ・ウィンター博士は南米グアテマラで宣教師でした。のちにアメリカに帰国し、フラー神学校の宣教学教授になりました。しかし1976年、博士は教壇を去り、ナザレン大学の跡地に世界宣教センターを設立し、宣教戦略家に転身しました。そして博士は方向転換を遂げます。「宣教する」から「動員する」に軸足を移したのです。

晩年の博士は、動員の角笛を鳴らす方に精力を傾けました。博士は言います。「私が一人で宣教地で伝道するより、海外伝道に人々を動員する方が効果的ではないか？山火事を消火するために、私がバケツ一杯の水を撒くよりは、眠れる百人の消防士を覚醒させる方が、もっと多くの人を救えるのではないか？」。

私もまったく同感です。私も宣教師でした。一人で多くの人を救おうと奮闘しました。でも私も博士と同じ方向に歩みを変えました。宣教師であることから、すべての教会のすべての信徒を海外伝道に動員する方向へ。イエス・キリストに人々を導くためです。

必要なのは、神の御国の計画についてキリスト者に語り、教え、訓練することです。なぜなら、悲しいことに、神が世界宣教に召したことを知らないキリスト者がたくさんいるからです。

ヨハネ 15：16 は言います。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである」。使徒ヨハネによれば、私たちみんなが召されているのです。選ばれた少数だけではありません。私たちすべてです。

牧師としての私の責任は、教会のすべての青年・壮年の信徒を体験ツアーに連れ出すことです。海外伝道を盛り上げるために

は、短期間でいいから、教会員に世界宣教の現場を体験してもらうことが欠かせません。体験ツアーは、教会員が現地を「見て味わい」、主が力強く用いて下さることを体験させてくれるからです。

ツアーの参加者は村に入り、学校で教え、村人を訪問し、彼らのために祈ります。参加者が現地に関わる方法は無限です。母国の教会に戻ったら、体験ツアーの参加者は、何らかの形で、今まで以上に世界宣教に関わるようになります。

このために、まず私たちは、キリスト者に与えられている霊的賜物について、御言葉が語っていることを教える必要があります。そして実際に霊的賜物、能力、リソースを使って、神の地球規模のご計画を実現する機会を提供しなければなりません。



みなさん、聞いていただきたい。神の霊は教会がかつて経験したことのない最上の機会を与えて下さっています。失われた魂を救うのに、今以上に適した時代はないのです。だから神の民として立ち上がりましょう。目をあげて畑を見ましょう。色づいて刈り入れを待っています。目の前の霊的挑戦を逃してはならないのです。

神は新しいビジョンに、新しい献身に、新しい関わりに、私たちを招いています。この課題は、神の民が実った霊的稲穂に目を開き、失われた魂の呼び声に耳を傾け、大宣教命令に応える時に成し遂げられるのです。

私たちは初代教会のようでありたいと願います。初代教会のような奇跡を見たい。でも、あえてこう言いたい。もし、みなさんが本当にそう願うなら、無気力から立ち返り、どこに行っても、何をしていても福音を証しましょう。初代教会のように、神の召しを聞き取りましょう。神の御心を学びましょう。神の収穫者になりましょう。

すべての教会員が、すべての牧師やリーダーが、世界宣教の一部となるという責任を担っていかなければなりません。神のご計画が成功するか、失敗するか、すべては私たちの手に懸かっています。神の人として立ち上がりましょうではありませんか。

1999 年のイギリスでの協議会で、ジョン・ストットは多くの出席者の思いを次のようにまとめました。「世界宣教の現況は奇妙で、悲劇的で、逆説的だ。教会が急成長している地域もあるが、深みのない成長だ。成長に弟子訓練が伴っていない」。

共同声明文によれば、「われわれの教会成長への熱意には、成長に深みを持たせる献身が欠けている」。

世界宣教を担う新しい世代の若い勇士たちが起きていない現状をどう説明したらいいでしょう？ ジョン・ストットが指摘する教会の状況こそ、この謎を解くカギになると、私は信じています。

主イエスは天と地の一切の権威によって、すべての民を弟子にする使命を私たちに授けました。どうか聖霊が、私たちが主イエスに従うまで、私たちの魂を揺さぶってくださいますように。

日本のみなさんにも主の御命令を真剣にとらえて欲しいのです。かつて、宣教師といえば西洋から来ました。でもここ 25 年、状況は変わりつつあります。今や宣教師は、西洋よりも、アジア、アフリカ、南米から派遣されているのです。日本のみなさん、新しい世界宣教の大波に乗っていますか？

個教会に戻らなければなりません。神が重んじるのは個教会の存在と働きです。個教会こそが、神が働く現場です。神の御業は個教会が力を合わせて共に働くところに成就します。したがって、世界宣教の主体は、個教会を構成する個人個人なのです。

使徒パウロは主イエスを除けば、新約聖書の最も主要な人物であり、新約聖書の大半を書きました。パウロこそ、世界宣教のお手本です。パウロはローマ人への手紙で、教会の目的を以下のように要約しています（ローマ 16：25-27）。

「神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。その計画は今や現されて、永遠の神の命令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による従順に導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン」。

世界情勢を見ると、「時のしるし」に気づかざるをえません。世界宣教の召しは、今までになく急を要します。洪水、地震、大火事、干ばつ、戦争、そして世界規模の新型コロナの感染。私たちは「終わりの時」に生きています。時は短い。もっと速く、もっと広く、伝道する必要があります。

そういうわけで、私は日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団のみなさんに呼びかけたい。目の前にある世界宣教の未曾有のチャンスを見逃さないでいただきたい。掴んでいただきたい。そして、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、さらに地の果てに至るまで」福音を届ける使命を果たしていただきたいのです。

言い換えるならば、エルサレム伝道は自分たちの地域への伝道です。ユダヤとサマリア伝道は、県全体や日本全体への伝道です。そして「地の果てに至るまで」とは、海外伝道のことです。

主イエスが授けた使命は大きな課題です。地球上のすべての民族を主の弟子とせよ。すべての個人に福音を宣べ伝えよ。だからこそ、私たち全員が主の大宣教命令を聞き取り、それに応えなければならないのです。

世界宣教とは、あまりにも巨大な使命です。だから一個人、一教会のなせる業ではありません。



あまりに困難な課題です。だから聖霊の超自然的力が不可欠です。

あまりに苛烈な召しです。だから己に死に、真の達成を求めなければなりません。

すべての時間を、すべての労力を、すべての資財を惜しまず注ぐに値します。キリストの栄光が地の果てまで現れるために。

この使命が実現するとしたら、それをなせるのはただ教会のみ。つまり、みなさんです。

* ナオミ・ダウディ師は実業家から宣教師に転身し、マーシャル諸島で伝道しました。たまたま立ち寄ったシンガポールで、「42 人の信徒と 75 個の問題を抱える」教会の暫定牧師に就任。そのまま約 30 年間、主任牧師として奉仕しました。神学センターを設立し、現在学長として後進の育成に励んでおられます。

丸山陽子宣教師（台湾）

台湾は18年前にサーズが大流行し、26人が短時間で亡くなるという、怖い経験をしています。

この辛い経験があったので、政府がまず行ったのは、すべてのマスクの買い上げと、国営マスク工場の開業でした。

しばらくするとマスクの配給が始まり、すべての人がマスクを購入できるようになりました。並ばず買えるようにスマホでも購入でき、マスク争奪のパニックは全く起きず、医療用マスクを毎日つ

けることができています。

台湾がこんな制度を開始したころ、私たちは渡航警告2級の日本に5日間帰国しました。

しかし、私たちが台湾に戻った日は、なんと台湾に自由に戻れる最後の日でした。その後日本の航空会社やLCCは、ほぼ飛行停止になりました。

台湾に無事に帰国した私たち夫婦は、午後の集会を6箇所の場所に分散し、1.5メートルの距離を保って集会を続けました。

メンバーはほとんど一緒に生活をしており、集会禁止勧告が出されても、孤独になるということはありません。

セルの学びと実践をしていただくため、6つの場所に分散されても、牧会上あまり打撃を受けずに済みました。

ネットを使った情報発信も行っており、6つの集会に高画像の礼拝と説教ビデオを届けています。

WHOに加入を認められない台湾だが、主はこの国を守り、私たちの教会と家族も守って下さっています。



「過去10年間、公民館を転々とする少々つらい集会経験は、教会は一つの礼拝堂に集まることではないという教会観を、私たちにしっかり植えつけていた（丸山宣教師）」

関本英樹宣教師（フィリピン・ミンダナオ）

ダバオ市は、3月15日より検疫下に置かれ、夜間外出の禁止、集会の禁止、酒類の販売の禁止、通行書と身分証明書なしに買い物ができない制限が課されました。

私たちの集落にも食糧配給が数回実施されましたが、多くの方々が経済的に厳しい生活の中にあるようです。

6月に始まる予定だった公立学校も、8月後半に延期されました。

ダバオ市内の感染者は、

5月25日で235人です。増加の幅は緩くなっている事もあり、6月からはユニバーサル検疫による制限は段階的に緩和されていく予定です。

私たち家族は3月10日に教職研修会出席のために帰国しましたが、まだフィリピン再入国の目処がたっておりません。

日本に滞在中、母教会の十条基督教会で毎月1回礼拝で説教の奉仕をさせていただいています。

また5月31日には、

松山神愛キリスト教会の礼拝で、Zoomを使った宣教報告と説教の奉仕をさせていただきました。

戻り次第プリスクールの新年度の準備や、卒業生の家族を中心に食料配布の支援活動から開始していることと計画を練っています。

一刻も早く現地に帰ることができるように、祈りに覚えていただければ幸いです。



「フィリピンでは外国人のコロナウィルスの治療費は高額なので、コロナに対応できる海外医療保険を探しています（関本宣教師）」

山城良美宣教師（フィリピン・ルソン）

2月22日に教職研修会のために日本に帰国しましたが、コロナの影響で中止になりました。

3月10日にフィリピンへ戻る予定でしたが、フィリピン政府の入国制限で戻れませんでした。

フィリピンでは外出が許されず、礼拝ができません。私が開拓をお手伝いしている教会は、貧しい教会員にお米の配給をしてサポートしています。

帰国中、中央聖書教会、名古屋神召キリスト教

会、天塚基督教会、豊川基督教会、豊橋キリスト教会、桶狭間キリスト教会、高槻キリスト教会、新居浜福音キリスト教会、ニューライフチャペル、嘉手納アッセンブリー教会、沖縄プレイズ教会、沖縄中央アッセンブリー教会、沖縄神愛キリスト教会、名護アッセンブリー教会で説教や宣教報告をさせていただきました。

実家の沖縄で渡航制限解除を待っていますが、フィリピンでも車を運転できるように、AT 限定解除の審査

に合格しました。

6月3日、マニラを含むいくつかの州では、一般的な隔離措置に切り替わり、隔離措置が緩和されました。ラ・トリニダッドを含むベンゲット州でも、一般的な隔離措置も解除され、条件付きで外出が出来るようになったそうです。6月から制限付きで集会などが出来るようになりそうです。

現地の牧師と情報交換しながら、1日でも早くフィリピンに戻るように祈っています。



「山岳地帯でも感染者が出ないように、隔離措置は厳重なので、公共の乗り物はありません（山城宣教師）」

献金報告

北海道教区 東北教区

紋別 盛岡
北見 山形
岩見沢 米沢
札幌神召 仙台
札幌東 泉
釧路 信愛
函館 郡山
東松島
つくば

関東北東教区 市川

宇都宮 千葉
結城 あすみが丘
結城川口 小岩
熊谷 匝瑳
深谷 狭山
サンライズ 元加治
ベテル 丸子町
志村 めぐみ福音
十条
神召
中央聖書
中央福音
東京シティ
江戸川台聖書
北越谷
江戸川台
新松戸

関東南西教区

新横浜
東海教区
伊豆仁田
富士宮栄光
駿河
希望
浜松
浜松北
豊橋
岡崎
桶狭間
名古屋
天塚
岐阜
大垣
四日市
清水ゴスペル
富士アッセンブリー
横須賀

北陸教区

氷見
金沢聖書
松任
敦賀
富山
小矢部

関西教区

大津
七條
高槻
門真
神愛
都島
大阪中央
岸和田
平野
堺
和泉
泉佐野
尾崎
橿原
南紀
尼崎
武庫川

献金総額 24,092,317 円

御影	四国教区	九州教区	沖縄教区	その他
明石	今治	下関	金武	横山臨
三田	新居浜	北九州	沖縄中央	横山あかり
西灘	松山	直方	嘉手納	近藤当三
西宮	徳島	福岡	沖縄神愛	河端真理子
三木	高知	西九州	那覇	山本努
伏見	須崎	希望ヶ丘	名護	安本晃子
神戸グレース	中村	熊本聖書	沖縄プレイズ	松嶋あけみ
中国教区	土佐清水	川尻		古賀俊博
竹原	阿南	シャロン		平松慶次
広島神愛	四万十	本渡		牧野孝一
宇部		牛深		赤井麻貴子
		人吉		つくば I.C.A
		佐伯		横田 I.C.A
		蒲江		I.C.A 東京
		海老津		米国内宣教献金
		百道		匿名(5名)
				Mission Possible 席上献金

献金はこちらまで
郵便振替口座
00120-9-15702
海外伝道部

海外伝道部

2020年委員会日程

2月26日 (Zoom 会議)
4月21日 (Zoom 会議)
4月30日 (Zoom 会議)
6月1日 (Zoom 会議)



6月16日 海外宣教連絡協力会
9月17日～18日 (藤沢市)
11月25日～26日 (名古屋市)

海伝ニュースアーカイブ

過去の海伝ニュースは下
記のQRコードから。



Facebook

海外伝道部
Facebook 用 QR コード



Mission Possible

* 5月31日に予定した
Mission Possible in 四国
は、コロナの影響で中止になり
ました。

* 11月25日 (水) に
Mission Possible in 東海
を予定しています。

部長 藤村良彦
書記 チュアめぐみ
会計 平松 巖
広報 長澤牧人
北野ジョイス